



横浜市立本牧小学校

学校だより



令和5年度 6月号

コミュニケーション=心の通じ合い

学校長 濱田 哲也

台風2号の影響で梅雨前線が刺激され、雨の日が続いています。今年度の梅雨は少し例年より早まるのでしょうか。校舎内で過ごすことが多くなる時期なので、安全に静かに過ごせるように声かけを行ったり、環境を整えたりしてまいりたいと思います。

さて、先週の土曜日、散歩途中で経験したちょっとしたエピソードを紹介します。ある公園の中を通り過ぎようとしていた時のことです。その公園は細長く、公園であるとともに表の道に出る通路の役割も果たしています。そこで私は表の通りにでるために公園の中を進んでいったのですが、出口近くにある方形の運動スペースを通過しようとしたところ、見た感じ中学1年生ぐらいの4人の子どもたちが野球の守備練習をしています。一人がバットでノックをして3人が守備。動きを連係しながらダブルプレーの練習をしています。私は、本来ならば出口に向かって方形の運動スペースを斜めに横切るのが最短コースなのですが、練習の邪魔にならないように方形に沿って彼らを避けるように進むことにしました。すると彼らは私が通り過ぎるまで練習を中断して、一人の子どもの側を通り過ぎようとしたときに「すみません」と私に一礼してきました。私は軽く手を上げて「いいよ」と合図をしました。私が通過後、彼らは何もなかったように練習を再開しています。何気ないコマでしたが、何か清々しい気持ちになりました。最初は遠回りを余儀なくされて、遠回りをしながら面倒だという気持ちが正直先行していました。しかし、運動スペースなので運動すること自体はもともと悪くありません。子どもたちがせっかく楽しんで一生懸命に取り組んでいるのだから、「まあいいじゃないか」と自分を納得させていました。そのような状況の中、思いがけずあの一言があったので何だか心地よさが心に残りました。きっとこちらの思いが相手に伝わって、心と心が通じ合った感じがしたからでしょう。私はその後の散歩の道すがら、このような一言が自然とかけられる子どもたちになってほしいなと思いました。ちょっとした一言がなかったことで、お互いの関係が悪くなることは日常の中に多く見られます。家族同士、友だち同士、他人同士などなど。社会で気持ちよく生活するためには、自分のことばかりでなく、相手の気持ちや立場、周囲の状況などさまざまなことを考えながら、過ごすことが互いの関係を良好にしていくものだと考えます。ちょっとした一言や合図によって、人と人の心が通じ合うことがコミュニケーションの秘訣であると思います。日常の挨拶からはじまり、「ありがとう」「ごめんなさい」が自然に言える子どもたちをご家庭や地域の皆様とともに育ててまいりたいと思います。

2中4小学校運営協議会スタート（5月29日）

～大鳥中 本牧中 大鳥小 間門小 本牧南小 本牧小～

「将来、本牧のまちを担う子どもたちを本牧のまちみんなで育てましょう」というコンセプトで昨年度よりそれぞれの学校運営協議会の連合体として立ち上がりました。各自治会長やスポーツ推進委員連絡協議会会長の皆様をはじめ、キッズクラブ主任、青少年指導員、育む会会長の皆様に委員を務めていただいて、子どもたちの健やかな成長のためにご尽力いただいています。